

みややまなかざといせき

宮山中里遺跡

(寒川町 No.27遺跡)

調査期間 20110401～20120331

所在地 高座郡寒川町宮山
3,078-1 他

時代 弥生、古墳、奈良・平
安
中・近世



概要

宮山中里遺跡の発掘調査は、一般国道 468 号(さがみ縦貫道路)建設事業に先立つ調査として行われました。発掘調査・出土品等整理作業は 2004 年度から継続して行われ、北側にある倉見川端遺跡、倉見川登遺跡とともに事業を進めています。2011 年度は上記の3遺跡について発掘調査を行いました。

遺跡は相模川の左岸の微高地(自然堤防)に立地していて、南北に細長く広がっています。おおむね宮山駅の北方から倉見駅の周辺まで、弥生時代から近世の遺跡が広がっていることが確認されています。このうち宮山地区に分布する範囲を、地名を基にして宮山中里遺跡と呼んでいます。

宮山中里遺跡は、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世、近世に亘る複合遺跡ですが、時代ごとに分布の中心は異なっていることが分かってきました。相模川寄りの地区では、古墳時代後期の古墳群がJR相模線に沿うようにして、南北に連なって造られていたことが明らかとなっています。これらの古墳群は、平安時代以降現在までの間に墳丘(ふんきゅう)が削平されてしまって、地表面では古墳の痕跡は全く残ってなくて、古墳があったことは知られていませんでした。古墳の跡は、宮山中里遺跡の北隣の倉見川端遺跡で発見されている古墳跡と合わせて、これまでに 35 基が発見されています。

奈良・平安時代から中世にかけての遺構は、相模川から比較的離れた内陸側の地点で多く見つかっています。Eランブ地区と呼んでいる相模川から 200mほど離れた地点では、平安時代の竪穴住居址や中世に遡ると考えられる井戸跡が見つかっています。また、P94 地区では中世初頭頃に廃絶したと思われる比較的大型の溝跡が発見されました。ここからは 13 世紀頃に製作された白磁の碗など、比較的「高級」な遺物が出土しています。

古墳時代の遺構・遺物では倉見川端、倉見川登遺跡に分布の偏りが見られます。弥生時代から古墳時代にかけての



▲ AE2地区 古墳周溝(古墳時代)



▲ P92 地区出土青銅鏡



▲ P94 地区 2号溝

竪穴住居址は昨年度(2010年)だけで26軒見つかりました。特にP94地区付近ではこのうち14軒が検出され、分布の1つの中心があったようです。またP92地区の古墳時代の住居址からは直径6.7cmの青銅鏡が1点ほぼ完全な形で出土しました。これまで神奈川県内において鏡の出土例は40数例ありますが、古墳からの副葬品としての出土例が大半を占めます。完全な形で住居址から出土したのはこれが初めてであることから、古墳時代の祭祀を考える上で貴重な発見と言えます。



▲ P94地区 住居址群